

観光立国の実現に関する目標(案)

平成23年12月12日

観光立国の実現に関する目標(案)

目標の分類	観光立国の実現に関する目標	観光立国の実現に係る参考指標
観光による国内消費の拡大	1. 国内における旅行消費額 [平成21年(2009年): 25.5兆円] 【案】(26.45~33.59兆円程度)	(1) 宿泊旅行消費額、日帰り旅行消費額、訪日外国人旅行消費額 (2) 観光の雇用効果
国際観光の拡大・充実	2. 訪日外国人旅行者数 [平成22年(2010年): 861万人] 【案1】(平成28年までに1,500万人) 【案2】(平成28年までに2,000万人) 3. 訪日外国人の満足度 [平成22年(2010年): 大変満足35.6%、必ず再訪したい49.7%] 【案】(大変満足40%程度、必ず再訪したい50%程度) 4. 国際会議の開催件数 [平成22年(2010年): 741件] 【案】(平成28年までに5割以上増、アジア最大の開催国)	(1) ゴールデンルート上の訪日外国人が集中する地域以外の地域での延べ宿泊者数 (2) 訪日外国人旅行者に占めるリピーター数 (1) 国際会議、展示会、研修等参加の外国人参加者数
	5. 日本人の海外旅行者数 [平成22年(2010年): 1,664万人] 【案】(2,000万人)	(1) 若年層の日本人海外旅行者数
国内観光の拡大・充実	6. 国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 [平成22年(2010年): 2.12泊] 【案1】(3.12泊) 【案2】(2.42泊) 【案3】(2.12泊) 7. 国内観光地域の旅行者満足度 [実績値なし] 【案】(大変満足・必ず再訪したい25%程度)	(1) 国内宿泊観光旅行を行わない国民割合 (2) 若年層の国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 (3) 三大都市圏以外の地方を主目的とする国内宿泊旅行消費額

○ 観光による国内消費の拡大

1. 国内における旅行消費額

平成28年(2016年)までに **兆円程度**にする。〔平成21年(2009年):25.5兆円〕

【考え方】

目標値＝トレンドによる予測＋施策実施による上乗せ需要

①トレンドによる予測

宿泊旅行、日帰り旅行、海外旅行(国内分)、訪日外国人旅行について、平成16年(2004年)－平成21年(2009年)実績に回帰したトレンドで伸びていくと仮定。

→宿泊旅行:14.05兆円、日帰り旅行:5.12兆円、海外旅行(国内分):1.82兆円、訪日外国人旅行:1.73兆円
合計**22.73兆円**【平成28年(2016年)の消費額トレンド予測】

②施策実施による上乗せ需要

○宿泊旅行・日帰り旅行

宿泊旅行及び日帰り旅行が施策により増加すると仮定

➡ 「6. 日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数」の目標

○日本人の海外旅行者数

日本人の海外旅行者数が施策により増加すると仮定

➡ 「5. 日本人の海外旅行者数」の目標

○訪日外国人旅行者数

訪日外国人旅行者数が施策により増加すると仮定

➡ 「2. 訪日外国人旅行者数」の目標

○ 国際観光の拡大・充実

5. 日本人の海外旅行者数

平成28年(2016年)までに**2,000万人**にする。〔平成22年(2010年):**1,664万人**〕

【考え方】円高の影響等により日本人の海外旅行者数が増加していることから、現行の目標数値を維持する。

(参考)JATA(日本旅行業協会)のビジット・ワールド・キャンペーン(VWC)の目標:日本人の海外旅行者数:2,000万人

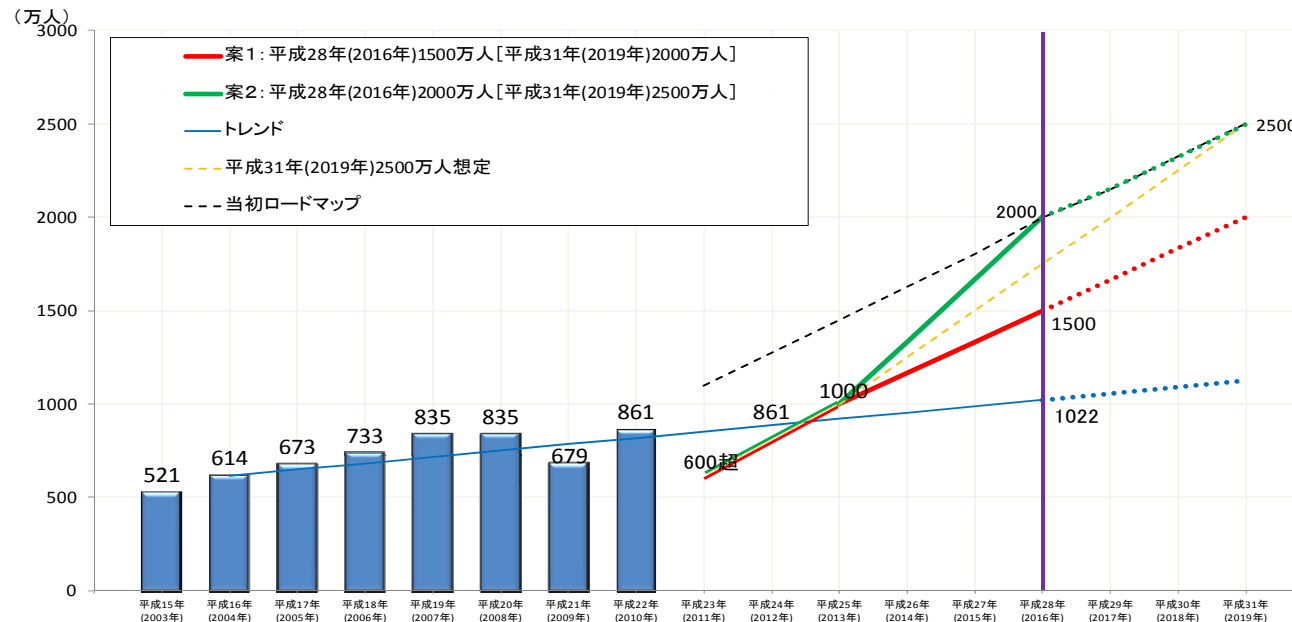
2. 訪日外国人旅行者数

(案1)平成28年(2016年)までに**1,500万人**にする。

(案2)平成28年(2016年)までに**2,000万人**にする。〔平成22年(2010年):**861万人**〕

【考え方】(案1)平成24年(2012年):震災前レベルへの回復(861万人)、平成25年(2013年):1000万人、平成28年(2016年):1500万人(平成25年(2013年)をベースに現行「訪日外国人3,000万人へのロードマップ」の「3年間で500万人の増加」を適用する。)

(案2)現行「訪日外国人3,000万人へのロードマップ」で示している平成28年(2016年)2,000万人の数字を目指す。



○ 国内観光の拡大・充実

6. 日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数
(案1)平成28年(2016年)までに年間**3.12泊**とする。
(案2)平成28年(2016年)までに年間**2.42泊**とする。
(案3)平成28年(2016年)までに年間**2.12泊**とする。
〔平成22年(2010年):2.12泊〕

【考え方】

(案1)

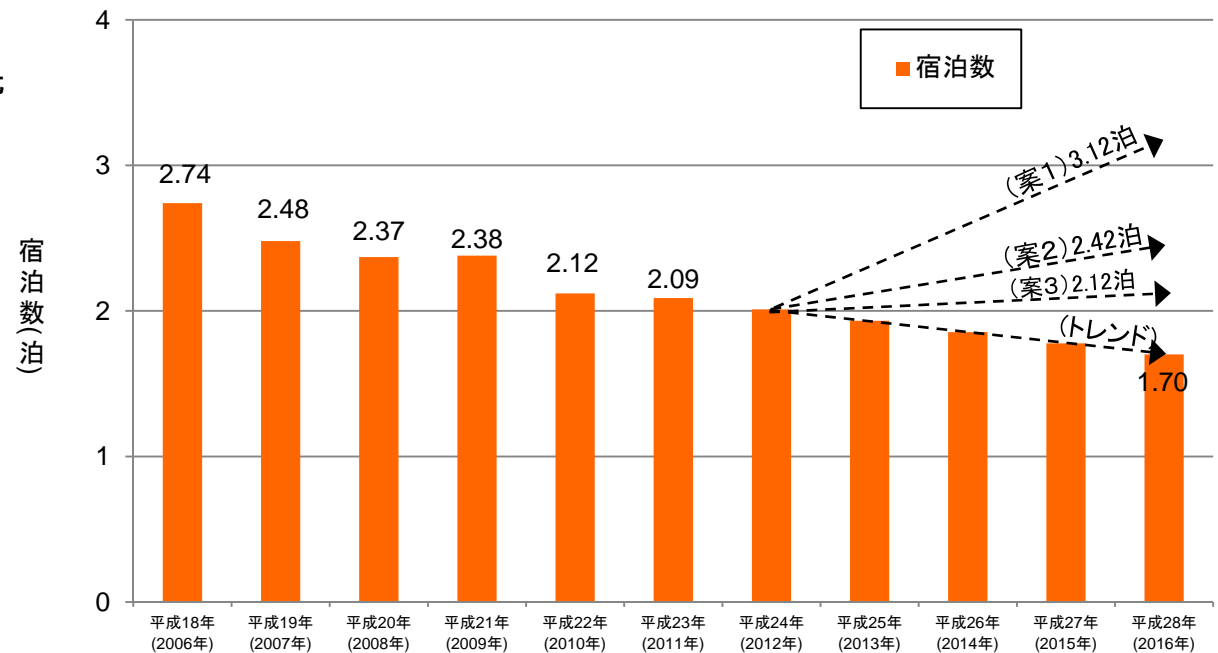
日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数について、魅力ある旅行商品の提供や魅力ある観光地域づくりなどの施策を講じることにより、平成22年(2010年)の実績(年間2.12泊)に対して、1泊増加するものと考える。

(案2)

日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数について、減少傾向を食い止め、魅力ある旅行商品の提供や魅力ある観光地域づくりなどの施策を講じることにより、過去5年(H18年(2006年)~H22年(2010年)の実績(平均約2.42泊)程度に戻す。

(案3)

日本人の国内観光旅行による1人当たりの宿泊数について、減少傾向を食い止め、平成22年(2010年)の実績(年間2.12泊)程度を維持する。



観光立国の実現に関する目標(案)

○ 観光による国内消費の拡大

(1. 国内における旅行消費額)

③ 施策による上乗せ効果の設定

○ 宿泊旅行・日帰り旅行 (※平成22年(2010年)を基準とする)

- ・ 宿泊旅行 : ① 宿泊観光旅行に出かけない層(64.4%)が新規に1泊2日、宿泊観光旅行に出かける層(35.6%)が年間で+1泊
 ② 宿泊観光旅行に出かけない層(64.4%)の10人に3人が新規に1泊2日、宿泊観光旅行に出かける層(35.6%)の10人に3人が年間で+1泊
 ③ 行動変化なし
- ・ 日帰り旅行 : ① 日帰り観光旅行に+1回出かける、② 日帰り観光旅行に+0.3回出かける、③ 行動変化なし

○ 日本人の海外旅行者数

平成16年-平成21年(2004年-2009年)トレンド分析では、平成28年(2016年)に1,479万人であるが、施策により2,000万人まで増加すると仮定

○ 訪日外国人旅行者数

平成16年-平成21年(2004年-2009年)トレンド分析では、平成28年(2016年)に1,022万人であるが、施策により1,500万人又は2,000万人まで増加すると仮定

④ 計算結果

○ 施策による上乗せ効果として、以下のような消費額が算定される。

施策	施策による旅行行動の転換	①	②	③	①	②	③
	平成28年度における訪日外国人	1,500万人			2,000万人		
	基礎的な消費額(H28)	22.73	22.73	22.73	22.73	22.73	22.73
施策実施	宿泊観光旅行	6.16	3.12	1.82	6.16	3.12	1.82
	日帰り観光旅行	2.41	1.04	0.45	2.41	1.04	0.45
	海外旅行(国内分)	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64	0.64
	訪日外国人旅行	0.81	0.81	0.81	1.66	1.66	1.66
	計	10.02	5.61	3.72	10.87	6.46	4.57
	合計	32.75	28.34	26.45	33.59	29.19	27.30

○ 国際観光の拡大・充実

4. 国際会議の開催件数

我が国における国際会議の開催件数を平成28年(2016年)までに**5割以上増やす**ことを目標とし、アジアにおける最大の開催国を目指す。 ※平成28年(2016年)の開催件数 1,111件以上
〔平成22年(2010年):国際会議の開催件数741件〕

【考え方】

我が国の過去の国際会議件数のトレンドを今後の施策努力により維持することで平成28年(2016年)の開催数を予測し、同予測値を域内の主要競合国の開催数と将来予測と比較し、概ねアジア首位となるレベルを想定して、さらに積み上げを行い、最終的な目標値として設定。

○ 国際観光の拡大・充実

3. 訪日外国人の満足度

平成28年度(2016年度)までに、訪日外国人消費動向調査で「大変満足」と回答する割合を**40%程度**、「必ず再訪したい」と回答する割合を**50%程度**とすることを目指す。

〔平成22年(2010年)：「大変満足」の回答割合35.6%、「必ず再訪したい」の回答割合：49.7%〕

【考え方】

観光分野の満足度や再来訪意向は、景観や自然が大きく影響を与えるため、地域によっては向上することが決して容易ではないことから、「大変満足」と回答する割合と「必ず再訪したい」と回答する割合を現在の数値から増加させることを目指す。

(参考) 「極めて歓迎された」と感じる旅行者の割合を現在の19%から増加させる」 : VisitBritain 2010 - 2011 Business Plan

7. 国内観光地域の旅行者満足度

国内観光地域の旅行者満足度調査において、総合満足度について「大変満足」と回答する割合及び再来訪意向について「必ず再訪したい」と回答する割合が平成28年(2016年)までにいずれも**25%程度**にする。〔実績値なし〕

【考え方】

観光客の感じる観光地の魅力を図る指標として、提供されるサービスに対する領域だけでなく、天候等の非サービスに対する領域への評価も含んだ「総合満足度」を設定。また、更なる観光振興へのつながりを図る指標として、「総合満足度」より直接的な指標となる「再来訪意向」を設定。観光分野の満足度や再来訪意向は、景観や自然が大きく影響を与えるため、地域によっては向上することが決して容易ではないことや、類似の調査による結果を踏まえ、目標数値は回答割合を「25%程度」とした。

(参考1) 観光地の魅力向上に向けた評価手法調査事業(平成22年1月上旬～2月中旬調査) : 観光庁
総合満足度「大変満足」回答割合：23.1%、再来訪意向「大変そう思う」回答割合：24.0% (調査地域：全国50地域、調査票回収数：11,626件)

(参考2) 2011年度第1回基礎調査(CSロイヤリティ調査)中間報告(平成23年7月～9月調査) : 観光地マネジメント研究会((財)日本交通公社)
総合満足度「大変満足」回答割合：18.6%、再来訪意向「大変そう思う」回答割合：14.5% (調査地域：全国49地域、調査票回収数：7,073件)

観光立国の実現に関する目標(案)

<参考指標>

1. (1) 日本人国内宿泊旅行消費額:平成28年(2016年)までに、兆円〔平成21年(2009年)17.4兆円〕
日本人国内日帰り旅行消費額:平成28年(2016年)までに、兆円〔平成21年(2009年):5.5兆円〕
訪日外国人旅行消費額:平成28年(2016年)までに、兆円〔平成21年(2009年):1.2兆円〕
1. (2) 国内における旅行消費額を拡大することで、人分に相当する雇用効果を創出
〔平成21年(2009年):462万人分〕
2. (1) 訪日外国人が集中しているいわゆるゴールデンルート上の東京都、千葉県、大阪府、京都府以外の地域における延べ宿泊者数 平成28年(2016年)までに 万人程度〔平成22年(2010年):約1,000万人〕
2. (2) リピーターの多い市場(韓国、台湾、香港、シンガポール)を中心として、訪日外国人旅行者に占めるリピーター数 平成28年(2016年)までに 万人程度〔平成22年(2010年):515万人〕
4. (1) 国際会議、展示会、研修等参加の訪日外国人参加者数 万人
5. (1) 日本人の若年層の海外旅行者数 平成28年(2016年)までに 万人〔平成22年(2010年):270万人〕
6. (1) 年間に国内宿泊観光旅行を全く行わない国民の割合 平成28年(2016年)までに、%程度
そのうち、特に、若年層における割合 %程度〔平成22年(2010年):64.4%(若年層における割合:63.6%)〕
6. (2) 日本人の若年層の国内宿泊観光旅行による1人当たりの宿泊数 平成28年(2016年)までに年間平均 泊〔平成22年(2010年): 泊〕
6. (3) 三大都市圏以外の地方を主目的地とする国内宿泊旅行消費額 平成28年(2016年)までに 兆円
〔平成22年(2010年): 兆円〕 ※旅行中支出のみ